



辻川だより

第16号 [2010冬号] 平成22年12月4日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原1227
TEL 0790-22-5763
ホームページ <http://www10.plala.or.jp/tujikawa/>

先日、小浜市へ視察に行ってきました。小浜市の「食のまちひくら」の取り組みは、全国的にも知られています。まちひくらといえば、「道路を造ってほしい」とか、「こんな施設が必要だ」という「ないものねだり」の発想をするのが一般的ですが、小浜市では、自分たちが今住んでいる所には何があるかを考える、「あるものさがし」から取り組んだといいます。

しかし、「あるものさがし」とひとくちに言つても、まあづくりのきっかけとなるものを探すのは、たやすい事ではなかったようです。

ある地域でひとりの老人がつぶやいたといいます。「『あるものさがし』といっても、ここには何もないよ、あるものは自然だけ、それと子どもたち、子どもたちはみんな孫みたいなもんだよ」と。

この言葉が、やがて小浜市の取組みの大きな特色である究極の地産地消、すなわち、地域の農家が作った野菜を「孫たち」の通りの学校へ届ける「校区内型地場産学校給食」に発展していくことは、誰も思っていなかつたようです。



10日 17時 宮出 加治谷・井ノ口と

市内（食のまちひくら）の取り組みは、全国的にも知られています。まちひくらといえば、「道路を造ってほしい」とか、「こんな施設が必要だ」という「ないものねだり」の発想をするのが一般的ですが、小浜市では、自分たちが今住んでいる所には何があるかを考える、「あるものさがし」から取り組んだといいます。

しかし、「あるものさがし」とひとくちに言つても、まあづくりのきっかけとなるものを探すのは、たやすい事ではなかったようです。

ある地域でひとりの老人がつぶやいたといいます。「『あるものさがし』といっても、ここには何もないよ、あるものは自然だけ、それと子どもたち、子どもたちはみんな孫みたいなんなんだよ」と。

この言葉が、やがて小浜市の取組みの大きな特色である究極の地産地消、すなわち、地域の農家が作った野菜を「孫たち」の通りの学校へ届ける「校区内型地場産学校給食」に発展していくことは、誰も思っていなかつたようです。



10日 14:20 宮入 宙に舞う



10日 14:15 宮入 西野屋台と

旬刊番[10選抜]ぶつ祭礼行事のお知らせ	
◆1月1日・2日	正月祭り（鈴の森・高藤稻荷神社）
◆1月9日（日）	10時30分 冬えびす（鈴の森・恵美酒神社）
◆1月15日（土）	15時 じんじ（鈴の森・高藤稻荷神社）

- ⑦ 保健所裏の上井郷水路[堰溝]（ゆみを）改修工事は2月末まで
- 1月1月28日（日）：辻川鬼太鼓が市川町ひまわりホールでの「銀の馬車道沿線交流フェスティバル」に出演。とりを飾った。香寺町岩部樽かき・土師獅子舞には歴史の重みを感じた。
- ◆1月16日（日）13:30～平成23年度総合

当面の予定

- ③ 辻川区自治運営規約の第3条（選挙）改正検討
- ④ 協議員選挙準備
- ⑤ 協力金徴収・決算準備
- ⑥ 総会に向けての来年度事業計画・予算等議案検討

- ① 秋祭り組織・運営・総括
- ② 辻川山周辺整備事業・まちづくり補助事業検討→鈴の森神社駐車場（元バレー場）に案内看板設置等
- ③ 国勢調査の確認
- ④ の円26日（日）道普請・雲津川清掃

- ① 9～11月行事・事業確認
- ② 秋祭り実行委員会構成・運行予定等説明
- ③ 隣保長・各種団体役員会議の月～11月の定例協議員会での報告や検討した内容を一部紹介します。



9日 11:20 上坂を上る

祭り前の恒例の行事。協議委員は雲津川へ。屋台運行前の露払いが完了した。

- ◆10月9日（土）秋祭り

- ◆10月9日（土）秋祭り
- ◆10月9日（土）秋祭り
- ◆10月9日（土）秋祭り
- ◆10月9日（土）秋祭り
- ◆10月9日（土）秋祭り
- ◆10月9日（土）秋祭り
- ◆10月9日（土）秋祭り
- ◆10月9日（土）秋祭り
- ◆10月9日（土）秋祭り

10月29日（金）



9日 12:10 ぬかるみの宮出



9日 11:55
雨中の奉納相撲

「上坂」への上り復活、本降りの鈴の森神社奉納・廻過ぎには蔵入れしたものの中身の濃い宵富だった。天候の回復した本宮では辻川ならではの粘りを見せた。とはいえ、深夜までの粘りは老体にはこたえた（23時蔵入）。夜の扇合せ（10/2）が功を

- ◆1月11月28日（日）行政懇談会・少年健全育成自治会研修会
- ◆1月11月28日（日）行政懇談会では、文化ゾーンとしての辻川界隈の今後の環境整備や自主防災計画等について意見交換がなされ、研修会では、東中からの報告、人権映画『あの向こうに』鑑賞との補足説明がなされた。33名出席

奏したか。

協議員としての 任期を終えて 感謝

内藤政義 ロリコーケーションで悩み

ました。そんな時は相手の言葉に耳を傾け、自分の考えはその後で。そうする距離を縮め、又一人理解者が増え心が豊かになりました。

新見良一 今夏はまつりと雪のいじわらいました。猛暑・灼熱の中、界隈展・民俗学のタペの準備作業では絶命寸前、ベリーベリー過酷でした。メンバーの熱中症回避対策に苦心。地球温暖化に備え、イベント内容や準備作業などの再考を。抜本的見直し必至。

日下博義

節目の2年間は特に長いと実感させられた。何をすべきだったのか、何が出来たのか、自問自答する。PDCA（計画→実行→検証→改善行動）を円滑に回せるシステムを構築して貰いたい。

金坂好隆 毎年の事業計画は僅か2・3

行の代わり映えのない内容ですが、実際の事前準備、後始末等など大変な事かと、いつも思い。区民の方々の協力なしではとても出来ない自治会活動

：感謝感謝で合掌！

松岡博子 思いがけず協議員に選ばれ

戸惑いと混乱の中、初心の「健康に気をつけ、他の役員さんに迷惑をかけないように」を心がけて過ごしてきました。皆様のご協力とお力添えに、感謝の気持ちでいっぱいです。

金井年郎 振り返って見ますと、何も出来ずにこの2年間が過ぎてしまった

ように思います。この間、大変多くの方にご協力頂き、本当にありがとうございました。

高井紳一 微力ながら辻川区の発展に寄与することに努めてまいりました。

自治会活動において経験したことは、今後の活動に多くの役に立つかと思つております。ありがとうございました。

新見良一 微力ながら辻川区の発展に寄与することに努めてまいりました。

田崎正和 協議員に選出された区の行事に参加する中で、協力と思いやりの心を持ち、助け合いながら辻川の歴史と文化を守り発展させていくものだと痛切に感じました。これからも人と人とのつながりながら、心豊かな住みやすいや辻川区になればと思います。

鈴木智久 「あっ」という間の2年間でした。何も残せず時だけが流れていきました。反省ばかりです。これまでの経験させて頂き、ありがとうございました。反省ばかりです。これまでの経験させて頂き、ありがとうございました。

玉垣にみる昔の辻川の賑わい

5 幻の辻川町と

玉垣奉納者

1の52（昭和27）年、県

は自治体の財政難克服と産業振興を図るため、町村合併を積極的に推進し始めた。当時、現福崎町は田原村、八千種村と旧福

崎町に分かれていたが、合併に向けて動き出したのは県によつたのであった（注2）。

トモヘル地区に指定された（注1）1の54年以降であった。

しかし、54年の月末、町名と町舎の位置をめぐる対立の中

で行き詰まり、合併協議自体が中断してしまった。

合併への動きに異変が起じつたのは55年3月。県から鶴居・甘地・川辺と合併するよう

に指定されていた瀬加村が突如、田原村へ合併を申し込んだ。田原村、八千種村は直ちにこれに応じた。田原・八千種・瀬加の各村議会は、それぞれの財産は「辻川町」に帰属する旨の決議を行ひ、19日には各村議会で合併を決定し、3月31日「辻川町」を実現したいというものが決まった。合併の理由として「古来より人情、風俗、習慣を同じくし産業、経済の面においては有無相通じ、特に農業、水利及山林の經營に関し不離一体の関係」にあることを強調した。

しかし、旧福崎町の陳情もあり、県は瀬加村の田原・八千種との合併を認めず、「辻川町」は宙に浮くことになってしまった。遂に7月、瀬加村は鶴居・甘地・川辺との合併に踏み切ることとなる。かくて田原村首脳部が期待した「辻川町」は、幻に終わつたのであった（注2）。

そこで、瀬加とのつながりを

鈴の森神社に残された玉垣奉納者の居住地から調べてみた（左

表 倒壊した30本は省く）。

（注1）合併協議以前の住民意識をするには至らなかつた。残念。

（注2）合併協議以前の住民意識を「神崎タイムズ」は、『1880の（明治22）年の地方制度改革はいか以前の旧東・神西両郡時代から市川をはさんで深く根ざしていた東西町村のわだかまり、近くは地方事務所・神姫バス営業所の設置問題はじめとした福崎・田原一町村間の複雑微妙な関係からみて、この合併こそ未曾有の難関とされていた・・・』と報じている（54年1月）。

（注3）1の56（昭和31）年5月3日、新福崎町がようやく誕生。町名を福崎が、役場を田原が、そして初代町長を八千種が、といつ形で三町村の顔を立てた合併が実現した。

ちなみに、地方制度の変遷は、1876（明治9）年に「姫路藩」辻川村・井ノ口村・北野村・田尻村が合併し西田原村（1880の（明治22）年に西田原・東田原・南田原の各村が合併し田原村になつてゐる。

や城崎三方村の柳行李（うきり）商、玉垣には遠くは京都の呉服商あるいは北海道や中国満州・大連市からの奉納もある。辻川が物流や行商の拠点（玉垣が広告塔）であった、離郷者にとっての寄進は故郷と心をつなぎ、地元の経済的負担軽減に役立つた、等の様子がうかがえる。そ

※ 全玉垣 1063 本中、氏子以外は 569 本。村社としては極めて多いのでは！？

編集後記

来年の『鈴の森神社の玉垣に

みる・』では、田原小学校旧講堂建築費寄付で有名な松岡源之助さんを、ハジ保の松岡秀隆さんの運載でお届けする予定です。（注1）期待ください。辻川

だより5年目に新風を。【田崎】